

第63回北海道高等学校バスケットボール選手権大会

(札幌市開催)

大会展望（男子の部）

平成22年6月18日から20日にかけて、北海道立総合体育センター（きたえーる）をメイン会場、札幌北斗高等学校会場で標記大会が行われる。参加校はそれぞれ各地区の予選を勝ち抜いた、男子30校・女子25校の計55チームである。

第1シード男子は、札幌地区1位代表の東海大付属第四高校が優勝候補に上げられる。地区予選決勝戦では延長の末、2月の全道新人大会2点差で優勝を逃した恵庭南高校を破っておりチームとしても良くまとまってきた。他では札幌藻岩高校・帯広三条高校・市立函館高校がベスト4獲得を狙う。

第2シードでは、札幌地区2位の恵庭南高校も優勝候補の1校である。札幌月寒高校や2月の全道新人大会1回戦目で接戦の末2点差で惜敗を喫した海星学院高校がリベンジを図っている。

第3シードでは、2月の全道新人大会第3位の旭川大学高校をはじめ、帯広地区1位の白樺学園高校、函館地区1位の函館大学付属有斗高校の伝統ある強豪校が同シードに入りしており大変激戦となり、熾烈なシード権争いが予想される。

第4シードでは、札幌平岸高校・北見柏陽高校・札幌工業高校がベスト8を狙い、更にはシード権争いに絡むことになると思われる。

今回も参加する各高校がベスト4のシード権や優勝を目指し、北海道から代表として2チームの沖縄インターハイ出場権を獲得するため、各ブロックでの熱戦が繰り広げられ、大いに盛り上がる事が予想される。

大会展望（女子の部）

第1シードは、2月の全道新人大会優勝、また、昨年12月のウィンターカップで全国3位と活躍した札幌山の手高校。U-18代表メンバー本川や、昨年からチームの中心となっているPG町田、SG高田や本川同様U-18代表メンバーで期待の大型センター長岡を擁し優勝候補筆頭である。

第2シードは、スピードや高確率のシュート力を持ち、粘り強いディフェンスでここ数年連続で決勝に進んでいる札幌地区2位の創成高校。

第3シードは帯広地区1位の帯広南商業高校をはじめ2月の全道新人大会において決勝まで進んだ創成高校に対しベスト4をかけた試合で2点の僅差で惜敗したが見事ベスト8入りを果たした実力を持った北見緑陵高校が注目される。

第4シードは2月の全道新人大会においてベスト4・函館地区1位の函館大学付属柏稜高校が有力候補であり、続く札幌北斗高校・海星学院高校が大変激戦となり、熾烈なシード権争いが予想される。開催地区札幌からの7チームを含む25チームで優勝が争われる。

今回も、どのブロックも目が離せない熱い戦いか繰り広げられるが、男子同様参加する各高校がベスト4のシード権や優勝を目指し、北海道から代表として2チームの沖縄インターハイ出場権獲得のため、大いに盛り上がる事が予想される。

以上